北海道コカ・コーラボトリング

地域に根ざした環境保護活動を展開

昨年創立45年を迎えた北海道コカ・コーラボトリングは「北の大地とともに」成長することを願い、道産子企業としての社会的責任を果たすことで、北海道民や北海道を訪れる人々に信頼され、選ばれる企業となることを目指している。

09年スタートの新中期経営計画では、スローガンとして「Restart2009～北の大地とともに～」、ビジョンを「収益力の強い経営基盤を確立し、北海道の魅力をさらに高める活動を継続的に実行します」としている。

札幌工場では2000年から廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、01年11月末時点で目標を100％達成した。今後もこの活動を続けていく方針だ。

コカ・コーラといえば、連想するのが自動販売機。同社が廃棄する自動販売機は、金属・非金属などに分類され、リサイクル・埋め立て・焼却などの方法で処理される。その結果、金属類を中心に部品の85～90％がリサイクルされている。

また、フロンも自社グループで回収し、適正に処理している一方、05年からノンフロン型自動販売機を段階的に導入しており、20年までに全面的に切り替える予定だ。

これらのビジネスの延長線上での環境対策とあわせ、同社では地域に根ざした活動も展開している。北海道の環境保護活動を応援するため、07年10月に「ジョージア　サントスプレミアム　北海道限定知床デザイン缶」の売上金の一部を、販売数に応じて寄付する協定を北海道と締結したのは、その一つだ。08年の寄付金は1200万円に上った。

北海道民にとって、世界自然遺産として登録された知床地域は、守るべき大切な財産だ。同社は知床の自然保護活動への応援事業として、06年に斜里町、07年に羅臼町と、町内に設置したすべての同社自動販売機の売上金の一部を寄付する協定を結んだ。両町内で自動販売機の利用者は3年間で延べ370万人となり、そこからの寄付金は両自治体の知床の自然保護活動に有効活用されている。

北海道の地産地消にも積極的で、道内産の砂糖やミルクを原材料に使用し、輸送に関わるエネルギー低減を推進しているほか、今年の5月には、「おいしい」と「環境にいい」を実現した天然水「い・ろ・は・す」を新発売した。これは、北海道の広大な大地に育まれたおいしい天然水（北海道地域販売分、520ミリリットルペットボトル、札幌工場で採取）で、しかも国内最軽量のペットボトルを採用（09年3月時点）した、環境にも配慮した製品だ。

また、防災の視点からの同社の取り組みにも触れておきたい。06年12月、地域の飲料水備蓄基地の代行を柱とする「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結し、これに基づき、電光掲示板付きの「防災協力自動販売機」（＝写真）を活用した防災情報や災害情報の提供、災害発生時の自動販売機内の飲料無料提供などの各市町村との協働活動を展開している。

電光掲示板が付いた「防災協力自動販売機」

そのほか、安全・安心な地域社会を願い、同社が北海道へ政策提案し06年7月から道民運動となった「子どもの安全を見守る運動」に同社グループの車両1200台で参加し、今では道内の官民や地域団体等あわせ2万5000台以上が参加する大きな活動となっている。

札幌工場では創業以来「見学ツアー」を実施しており、08年には1万8000人もの見学者が訪れた。

スポーツや各種イベントへの支援も惜しみがない。07年3月から「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、応援キャンペーンを実施しているほか、初夏の札幌を鮮やかに彩り観客動員数200万人を超える「YOSAKOIソーラン祭り」もオフィシャルスポンサーとして応援している。

「北の大地とともに」成長することを願う同社の社会的責任を果たす活動は、今後ますます広がっていくことだろう。

◇

▽所在地＝札幌市清田区清田一条1丁目2番1号▽代表者＝角野中原・代表取締役社長▽資本金＝約29億円▽グループ従業員数＝1253人